

経営比較分析表（平成29年度決算）

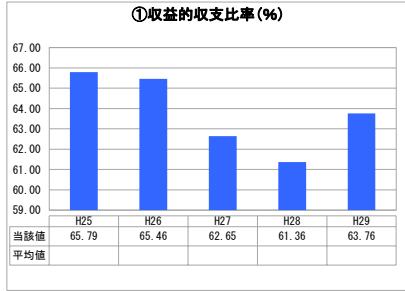
兵庫県 洲本市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ ³ 当たり家賃料金(円)
-	該当数値なし	23.26	85.06	2,484

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
44,796	182.38	245.62
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
10,330	2.93	3,525.60

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



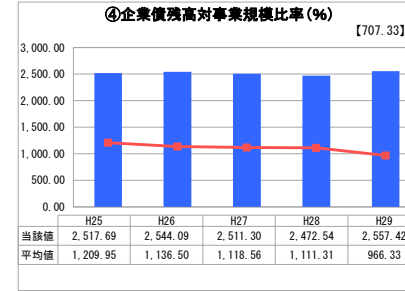
「単年度の収支」



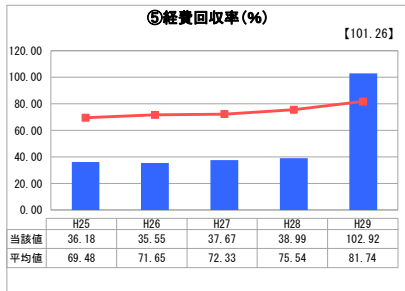
「累積欠損」



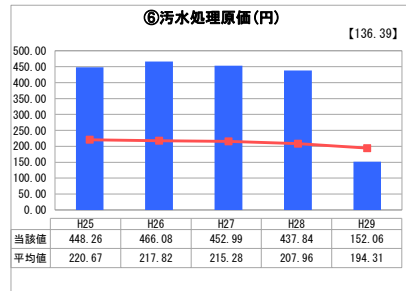
「支払能力」



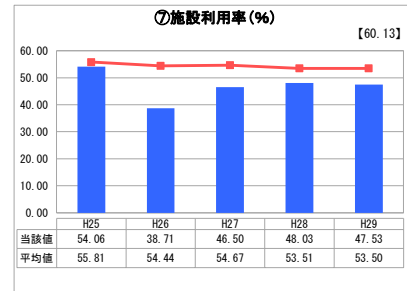
「債務残高」



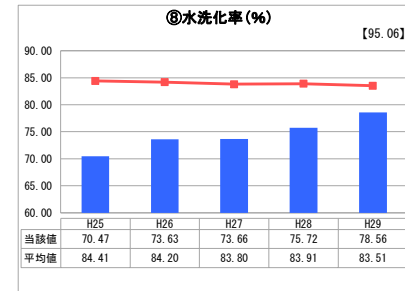
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」



「使用料対象の捕捉」

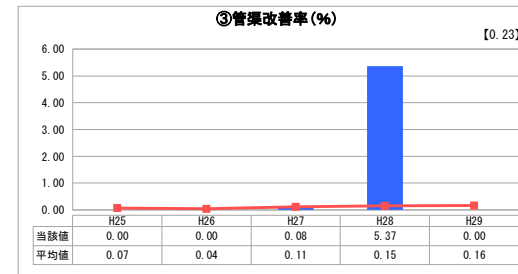
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

洲本市の公共下水道は、昭和60年2月に事業着手し平成5年9月に供用開始しています。平成30年3月末での面積ベースによる整備率は36.6%であり管渠の整備が進んでいない状況となっています。これは、平成16年の台風の水害後、雨水整備を重点的に行ってきたことによるものです。

収益的収支比率が平成24年度以降減少しています。これは、地方債償還金が増加したことが影響しています。また、平成32年度までは地方債償還金が増加するため当該数値が低いまま推移する可能性があります。

平成29年度の経費回収率の値が大きくなっていますが、その理由は分母となる汚水処理費から「資本費標準化債」及び「特別措置債」を減算していることによります。

同様に汚水処理原価についても、汚水処理費から年間有収水量を除外して算出しているために前年より低い数値となっています。

平成30年度からは公営企業会計を導入しています。これにより、事業の経営成績や財政状況を基礎とした経営状況を的確に把握するとともに、経済性が発揮されているかを検証することができ、より機動的で柔軟な経営を行うことを通じ、経営の質と効率性を向上させることが期待できます。

2. 老朽化の状況について

洲本市の公共下水道の管渠は、法定耐用年数を超えるものが最も古いもので約20年先となります。それまでに、対象となる管渠の更新・長寿命化等の改築が効果的に行えるように計画します。

全体総括

現状では、整備率が低いことにより各指標が類似団体平均よりも劣る数値となっています。今後、管渠の整備を進めていくことで経営の健全化および効率化を行います。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。